

第2章 基本方針

1. まちづくりの方針（ターゲット）

前章の課題を踏まえ、今後の人口減少・超高齢社会においても、黒石の魅力や価値を高めながら、誰もが安全・安心に、そして快適に「暮らし続けられる」「訪れたいくなる」都市を育むための方針（ターゲット）を次のように設定します。

【解決すべき課題】

人口減少・超高齢社会への対応

中心市街地の
低未利用地の増加

中心市街地の
歴史的資源の喪失

コミュニティバスの
利用者の減少

【まちづくりの方針（ターゲット）】

○回遊性の高い魅力ある拠点づくりと、活力・暮らしやすさの向上

◆中心市街地の回遊性を高め、商業・業務地区の賑わいの再生を図ります

- ・低未利用地を活用し、行政施設などの都市機能の分散配置や安全な歩行空間・広場を確保するなど、回遊しやすい環境を創出します
- ・回遊空間の創出とあわせて、民間事業者による施設誘導を図り、多様な都市機能の維持・誘導、賑わいの創出を図ります

◆中心市街地の魅力を高め、多くの人々が訪れ利用する環境づくりを進めます

- ・「こみせ」や歴史的まち並みなど、固有の歴史的・文化的資源を活かし、快適で居心地の良い魅力ある環境づくりを進めます
- ・「こみせ」や「かぐじ」など歴史的資源を再生し、安全で快適に歩き、憩い、集える場の創出を図ります
- ・多くの市民がこれらの環境を享受できるよう、周辺地区への居住を誘導します

◆多様な世代が移動しやすい公共交通の充実を図ります

- ・中心市街地の主要な施設と、市街地や集落地の生活拠点とを結ぶバス交通を充実させ、バスの利便性を高めるとともに、利用しやすい拠点形成を進めます
- ・拠点周辺に居住を誘導し、交通利便性の高い居住地の形成とともに、公共交通の維持、経営改善を図ります

2. 将来都市構造

まちづくりの方針を実現していくためには、都市の構造が、本市の特性を守り活かしながら、誰にとっても暮らしやすいものとなっている必要があります。

また、江戸期の陣屋町として栄えた歴史や文化と豊かな自然環境など、これまで継承されてきた本市の特性を踏まえ、この都市構造を将来にわたって維持・発展させることが、今後の人口減少や少子高齢化に伴う社会構造の変化に対応し、市民が安心して暮らせる持続可能なまちづくりを進める上で重要です。

そのため、歴史的・文化的資源の豊富な中心市街地と、その周囲に発展してきた集落地ごとの暮らしを維持するための拠点を配置し、それぞれの拠点のつながりを公共交通網で強化していくことを本市の目指す将来の都市構造とします。

図 将来都市構造



表 都市構造の位置づけ

都市構造の要素		位置づけ
拠点	 都市交流拠点	・本市の中心市街地に位置し、交通アクセスの要衝であり、生活サービスをはじめ、高次の都市機能を提供する拠点
	 生活交流拠点	・集落地に位置し、公民館等が立地する地区の交流拠点
	 黒石温泉郷拠点	・温泉と居住環境が共存する黒石温泉郷に位置し、地区の生活サービスや観光交流等の拠点
エリア	 都市型居住地	・用途地域内で、都市機能が集積する都市交流拠点にアクセスしやすく、利便性の高い居住エリア
	 農業生産型居住地	・集落地で、農業と居住環境が共存するエリア
交通	 基幹交通	・市内の拠点間や周辺の都市とを連絡する公共交通網
	 生活交通	・拠点周辺の居住地内や集落地間を連絡する公共交通網

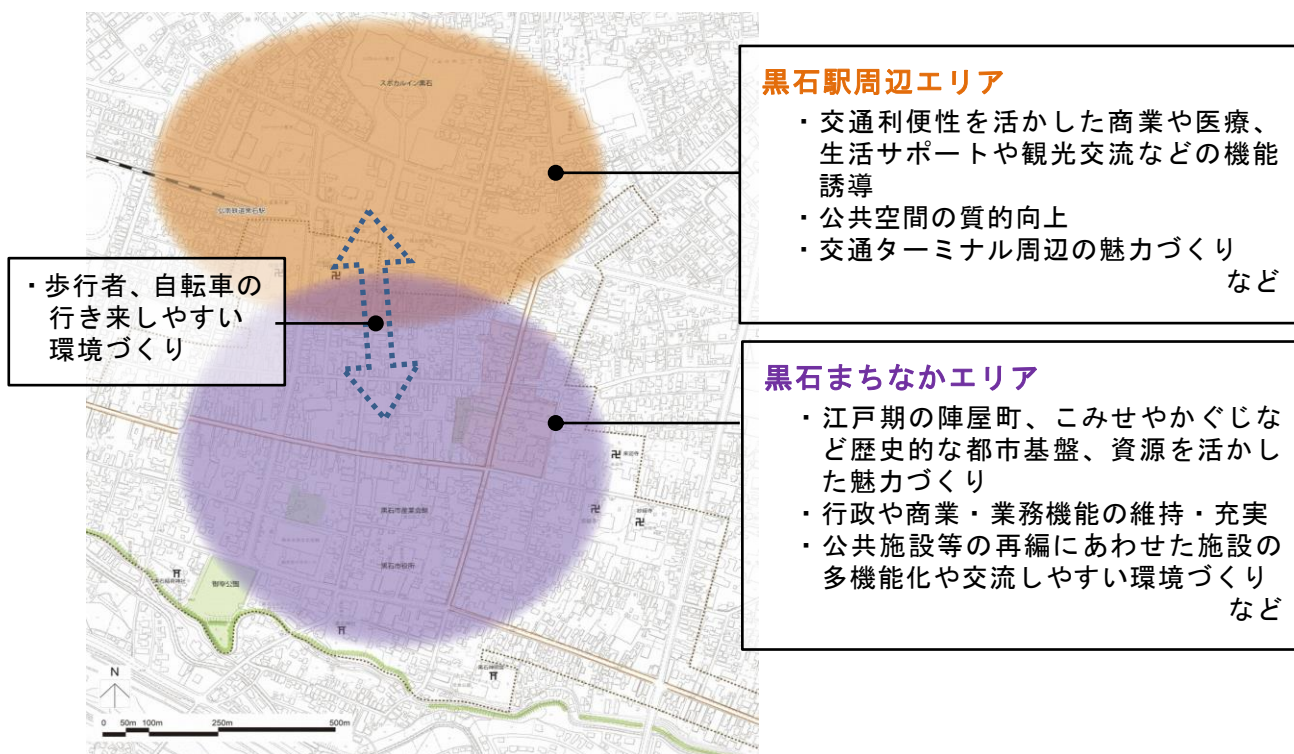
3. 将来都市構造の実現に向けた施策・誘導の方針

今後の人口減少、少子高齢化の進展を見据え、市民が便利で快適に暮らし続けられる持続可能なまちを目指し、黒石ならではの暮らしやすさを実現するための都市構造の構築に向けたまちづくりを以下の方向性で進めます。

1) 中心市街地の魅力の向上と都市機能の維持・誘導

- ・本市の中心市街地として、様々な人が集まり、多様な活動・交流の場となるよう、都市機能の維持・充実を図るとともに、江戸期より継承されてきた歴史的まち並みや建造物等を保全・活用するなど、エリアの特性を活かし黒石ならではの魅力を高めます。
- ・黒石市民が利用し、かつ訪れる人々へのおもてなしとなるよう、商業や居住、教育、歴史・文化、観光など様々な都市機能の集積を図りつつ、各機能を巡って利活用しやすい歩行環境の形成を図ります。

図 エリアの特性を活かした都市交流拠点づくり



2) 地域の暮らしと交流を支える生活拠点の形成

- ・商業や医療、交流など日常生活・活動を支える都市機能の集積度が高いエリアを地域生活拠点として位置づけ、生活に必要な都市機能の維持・充実を図り、歩いて暮らせるまちづくりを推進します。
- ・地域の歴史・文化や観光資源、農業等の産業や環境を活かした、地域固有の魅力ある拠点づくりを推進します。
- ・黒石温泉郷について、湯治場や客舎等を活かし、地域の生活や観光交流を支えるサービス機能の強化・充実を図りつつ、癒しと健康、賑わいのある拠点づくりを推進します。

3) 地域間のつながりを強化する、暮らしに根ざした公共交通網の形成

- ・中心市街地や生活拠点を結ぶ公共交通網を形成し、子どもからお年寄りまで、すべての市民や来街者が気軽に移動できるよう、公共交通の利便性向上を進め、歩いて暮らせるまちづくりを推進します。
- ・公共交通網の沿線に、商業や居住、医療、交流など各種都市機能を配置・誘導するとともに、電車・バス利用の関心を高めるモビリティマネジメントを進め、人々の外出や地域間交流の機会の増加を図ります。
- ・市民や交通事業者、周辺市町村との協力・連携による公共交通の維持運営を図ります。

4) 地域コミュニティや暮らしの維持と地域主体のまち育ての促進

- ・地域に根差したコミュニティや地区の伝統文化、景観等を活かした地域主体のまちづくりを推進し、地区ならではの暮らしやすさの維持・充実を図ります。
- ・市街地や集落地周辺の無秩序な宅地化を抑制し、効率的な除雪や周辺の豊かな自然環境の保全を考慮しつつ、既存の土地・建物を活用しながら快適な居住環境の創出を図ります。
- ・中心市街地をはじめ、市街地の様々な都市機能の集積を維持しつつ、周辺地域からの交通ネットワークを充実させるとともに、市民の多様な生活のニーズに対応できる快適な都市空間の形成を図ります。
- ・地域間の交通ネットワークの強化とともに、相互の地域資源の活用や産業、地域活動の連携などによる経済的な循環や交流・関係人口の拡大など、地域間連携による活力向上を図ります。
- ・中心市街地と温泉郷を結ぶ交通ネットワークや観光交流機能の連携を強化し、市内を訪れる人々の回遊・滞在を促すなど、黒石ならではの魅力を活かした賑わいと活気にあふれるまちづくりを推進します。